語釈 ： インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語（13）
(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後　藤　　寛

昨年の秋、米国での中間選挙の約１カ月前のことであるが、ニューヨークで毎年恒例の UN General Assembly（国連総会）〔第 73 回〕が開催された。会場で Trump 大統領は演説のほぼ冒頭で次のように言った。In less than two years my administration has accomplished more than almost any administration in the history of our country.　America's … so true.（笑い）... Didn't expect that reaction, but that's okay.（笑いと拍手）―〔文中２箇所の破線部はそれぞれほんの一瞬と数秒の間合い〕。

この場面はテレビでも何度も放映されたし、今なおネット上 YouTube などでも動画で視聴できるが、彼らしい自信満々の大変な自画自賛(self-praise)であった。

すなわち、「（大統領在任中の）２年間に満たない期間で自分の政権は米国史上でほぼどの政権よりも多くを成し遂げた」と彼は言った。つづいて「アメリカは. . .」と言いかけると会場の一瞬の異様な雰囲気のため間合いがあり、「本当なんですよ」と言うと失笑が漏れた。つづいて数秒の間合いのあと「こういう反応は期待はずれだったが、まあいいでしょう」と言うと、今度は笑い声とともに拍手が起こった。前回扱った Basic 語 **harmony**（和）でいえば、最初は聴衆との間にそれが保てなかった。しかしすぐさまその同系語の harmonica（ハーモニカ）の調和（harmonic harmony ？）は整った。何度もこの文を復唱するとよい。この１カ月後の中間選挙(midterm elections)を意識した自信に満ちた彼の言説であった。ともかく彼はこれが言いたかったのであろう。

ところでこの演説中で本連載(5)の②で見た accomplish が用いられているが、これは同義語(synonym)の achieve とはどう違うか？である。これは後で触れることとし、まずは Twitter 上でみる Trump 大統領の次の tweet を１つ引き合いに出すこととする。

Very proud of the U.S. Senate for voting "YES" to advance the nomination of Judge Brett Kavanaugh.　(October 5, 2018)

▲Trump 大統領は空席になっていた最高裁判事にカバノー氏を指名したのであるが、その後に彼に関する何十年も前の性的暴行疑惑が浮かび上がり、その適任性に疑念が湧いていた。FBI も調査したが確認できず、結果的には上院で承認される見通しとなり、これを Trump 大統領が喜び、誇りに思うと言っている内容である。この翌日にカバノー氏は正式に承認された。中間選挙を前に与党共和党にとっては安堵とはなった。

下線の proud of であるが、なぜ of か？これは part of の of と関わっている。partake of（分かち合う）が take the part of の意味であることは、このあたりの事情を象徴する。of は、分離(off)した後ろ(after)の部分(part)を同じ領域内の全体(all)と関連づける〔off / after を接続状態の on とする〕役割をする。**of, off, after** は元々は paronyms（同系語）であり、after は off の比較級で「より離れている(farther off)」の意味であった。be proud of は動詞 V としての他動性(verbal transitivity)をもつ pride oneself on より力学的意味ベクトルは弱い。be afraid [fearful] of [cf. fear (vt.)], be ashamed of [cf. shame (vt.)], take care of [cf. care (vt.)] など英語に膨大な数の成句が存在する。

太線語 Senate は米議会の「上院」で、senior（長老）と同系語だと見抜ければよい。

カタカナ語の「シニア」を想起してもよい。なお、「下院」は House である。

次の太線語 voting は文脈推理で意味は理解されようが、vote（投票する）は un-Basic 語 devote（献身する）、vow（誓う）などと同系である。これの PIE etymon は/WEG^{w}H/として復元されているが、目下のところ語頭子音に[w]をもつゲルマン系の同系語は英語に見当たらない。今後さらに追ってみたい。

ここで論旨を転ずるが、上で accomplish と同義語（類義語）の achieve はどう違うか？と言った。accomplish（達成する）、achieve（到達する）でははっきりしない。両者とも変化と結果を含意するが、accomplish のほうが意味は強い。Basic で考えれば accomplish は to get something done completely、achieve は単に to get something done の感じである。１語の Basic 演算子(operation)なら前者が get、後者は take の感じとなる。発生源の PIE etymon は accomplish は/PELə/（母音/E/があった）で原義は「満たすこと」、achieve は/KAP/で原義は「獲物の頭を偶然つかむこと」であった〔本連載(1)の⑥、(2)の②、(4)の②、(12)の冒頭参照〕。前者のほうが意味は強いことが分かる。ベクトル的に前者を明確な終点のある →●、後者を →○のように示しておこう。

さらに前回触れた今日的な生成意味論(generative semantics)での分析法は**語彙概念構造(lexical conceptual structure：LCS)**を示すことで、それの統語上への投射として説明し、いくつもある事柄の数を最終的には１つにする見方とも結びつく。

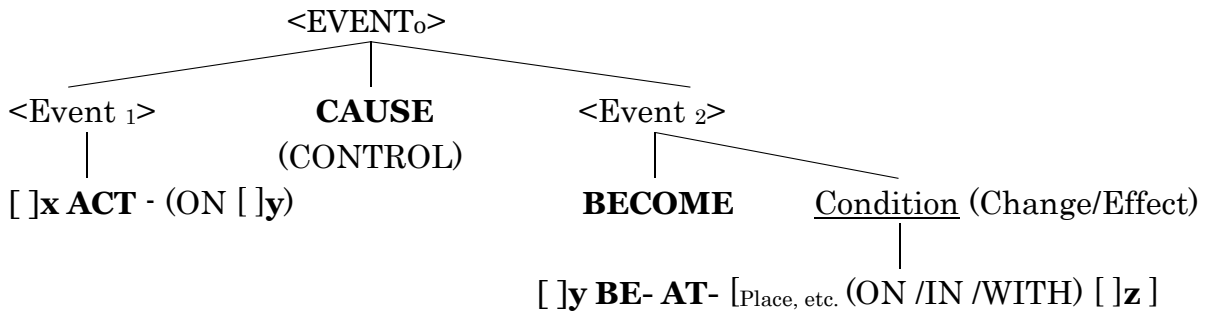
[ ]x ACT-ON [ ]y CAUSE [BECOME [[ ]y BE-AT-[ON/IN/WITH] [ ]z]]

すなわち、これは＜x が y に働きかけ、その結果 y は z の状態に変化する＞を意味する関数的な語彙概念構造 LCS で、CAUSE, BECOME, BE-AT の意味関数(semantic function)として事象合成(event conflation)でとらえることになる。**x, y, z は変項(variable)で、最終的に語彙化(lexicalization)のレベルで変項 z が定項(constant)として語彙目録から特定の語が編入(lexical incorporation)される**という考え方である。このレベルで意味概念を蒸留する Basic 語が有効な役割をする〔この点からは筆者は Basic の体系を、意味の蒸留装置(semantic distillation apparatus)と呼んでいる〕。

上の Trump 大統領の演説では **x** が my administration、**y** は more of something と考えればよかろう。そして **z** の**定項**には accomplish と同系の Basic 語である **COMPLETE** が編入・代入され織り込まれるとすればよい。これは LCS 上での定項[COMPLETE]z が統語上に投射され accomplish として実現している例となる。

彼の演説での最初の文をすべて Basic で考えるとすると administration は government でよい。そして My administration has accomplished more の部分は<My government has done more of something, and that something is complete.> のような核文(kernel sentence)の並列型がまずは設定できる。そして最終的には全体を整え In less than two years my government has done more complete work than almost any government in the history of our country. とでもすれば、Basic 文として成立する。なお、complete の比較級 more complete、最上級 the most complete はありうる言い方である。ついでながら perfect も比較級・最上級がないわけではない。たとえば the most perfect being of all（最も完全な存在）は、そう、神(*god*)の意味となる。

下の枝分かれ図(tree diagram)は**事象構造(event structure)**を上位事象(Event $_1$)と下位事象(Event $_2$)から、**変化と変化の結果状態**としてとらえることを示すもので近年、珍しいものではない。多分に筆者風にアレンジもしたが、事象的状況をすべて包含する。Event $_2$ はいわゆる付帯状況(attendant circumstances)とも重なると言える。



われわれは日常的に目に映るモノだけを見ているのではない。常に心の中でモノをコト化しても見ている。このモデルは上で横列に並べ語彙概念構造 LCS として提示したものと同じことである。太字体は原始意味述語(primitive semantic predicate)である。

いずれにせよ、このあたりは前回も参考のため示したが、日本ベーシック・イングリッシュ学会（名称は当時）発行の拙稿「BASIC ENGLISH と概念構造：事象分析からの意味記述」研究紀要 No.11（2003）pp.8-22、また「語彙概念構造と BASIC ENGLISH 言語の統語法」同 No.12 (2004) pp.1-12 などで詳細に扱っている。